

経営比較分析表

宮崎県 三股町

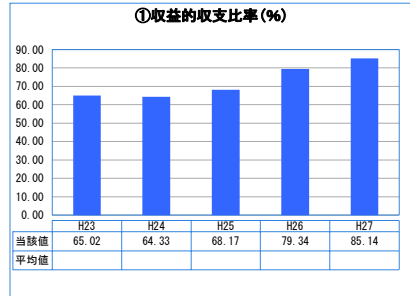
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc3	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	35.65	99.11	3,326

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
26,012	110.02	236.43
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
9,237	2.82	3,275.53

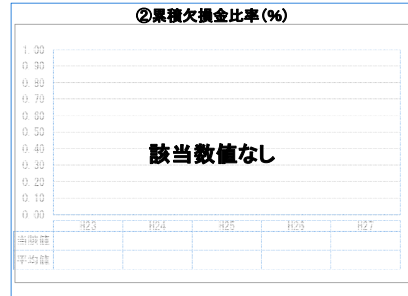
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 平成27年度全国平均

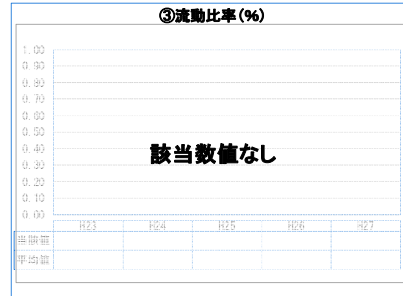
1. 経営の健全性・効率性



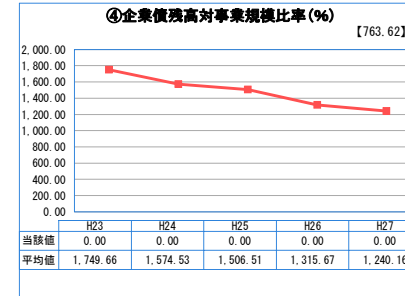
「単年度の収支」



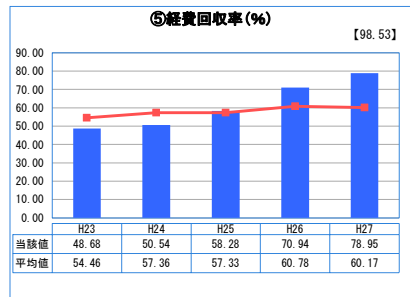
「累積欠損」



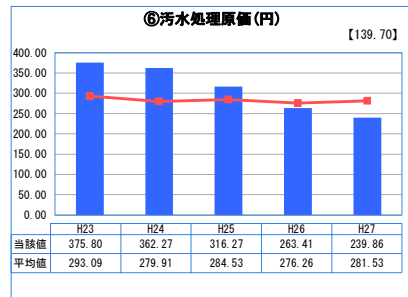
「支払能力」



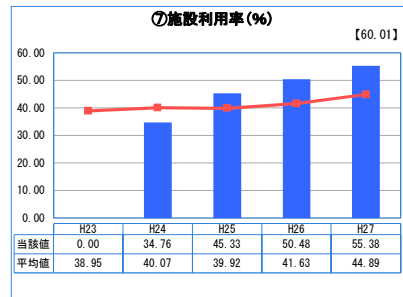
「債務残高」



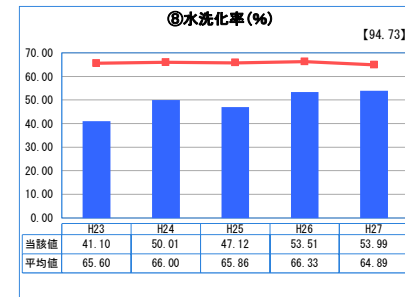
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

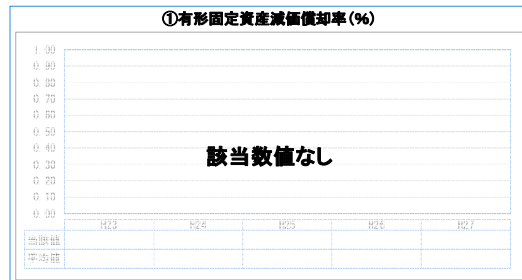


「施設の効率性」

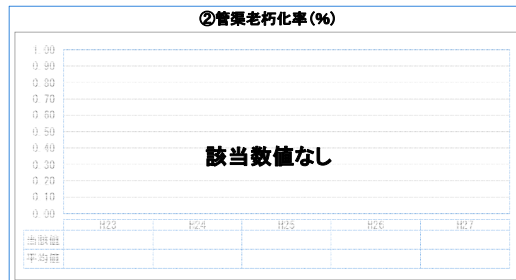


「使用料対象の捕捉」

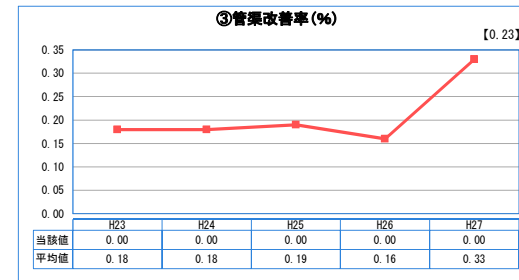
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析稿

1. 経営の健全性・効率性について

本町の公共下水道は、平成17年に共用開始し11年が経過しています。しかし普及率は36.5%と低い水準のため、事業整備投資に対し使用料収入が低いことから①「収益的収支比率」が100%を下回っています。このことにより、経営の健全性が確保されているとはいえない状況です。しかし、近年は接続件数の増加により使用料収入が増え「収益的収支比率」は徐々に改善されてきています。④「企業債残高事業規模比率」は、H27年度まで、一般会計繰入金により賸われている状況であり、現在は使用料金の増加に伴い、起債償還への充当が見込めることから、一般会計繰入金が増減し、企業債比率が改善されると予想されます。また⑤「経費回収率」については、類似団体平均値60%に対し本町は79%と上回っており、経営の改善が進んでいることが確認できます。⑥「汚水処理原価」については、H26年度より類似団体平均値を下回っていますが、今後は施設の更新等が出てくることから「汚水処理原価」が高くなることを予想されます。そのため、施設の延命化に努める必要が出てきます。⑦「施設利用率」は、平成25年度から類似団体平均値を上回っていますが、更に効率性の向上に努める必要があります。⑧「水洗化率」は類似団体平均値を下回っており、接続推進に努める必要があります。

2. 老朽化の状況について

供用開始から11年が経過していますが、耐用年数を超えている管渠はなく、現時点で必要な改築等は無いため、管渠改善率は低い水準となっています。しかし、処理施設については、今後徐々に耐用年数を向かえることから、施設の長寿命化計画を作成し、随時改築・修繕を行っていくことが必要となります。

全体総括

経営の健全性と効率性を高めるため、水洗化率の向上による使用料金の増と、汚水処理施設の統合による、効率性の向上が必要となります。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。